

第4回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和3年3月24日（木）
15時30分～17時00分
場所：WEB（高梁市役所5階会議室）

1. 開会

2. あいさつ

（三村委員長）

コロナウイルス感染症の影響があるなかで、予定通りいかないところはありませんでしたが、進められるだけ進めてきた。年度末で人事異動等があるなかで、みなさんにはしっかりと引継ぎをお願いしたい。みなさんの力を合わせながら不退転の意思で取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。本日はZoom会議ではありますが、積極的な発言をお願いいたします。

3. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）令和2年度の取組状況の報告について

<意見交換>

（柏原委員（代理：今野課長））

マイ・タイムライン講習会はグループワークが肝となっており、新型コロナウイルスの影響で開催が難しい状況である。福地小学校での避難所体験をしてからマイ・タイムライン講習会を実施する取組は、非常に効果的である。

（小川委員）

モデル地区事業で「避難」をテーマにされているのは、住民の方々の気付く良いきっかけになっている。コロナ禍のなかで、たくさんの事業をされている。

（三村委員長）

モデル地区で地区防災計画の作成を目指すなかで、県の力添えが必要となってくる。また、要支援者等の避難の課題もあり、社会福祉協議会の協力も必要になってくる。

（横林委員）

社会福祉協議会では、福祉委員、民生委員との連携を行っている。各町内の福祉委員には、町内の要配慮者の把握や、平時や災害時の見守り・声掛けなど、民生委員と連携して要配慮者が避難できるようにしていくよう、研修会でも話をしており、社協としても力をいれている。

※市長あいさつ

委員の皆様が取組みに感謝している。地域に出向いていただきありがとうございます。その方向性は大事だと思う。自主防災の支援モデル・連絡会の設置・学校での防災教育進めていただいております。平成30年7月豪雨災害から3年近くたち、ハード整備は少しずつ進んでいるが、それで意識は薄れていく。災害に備えていかなければ、こういう機会に意識を持っていく。

（2）自主防災組織の設立支援等モデル地区に対する支援等について

<意見交換>

(三村委員長)

住民主導で皆さんで考えていただく、具体的なロードマップを描きながら、どこで委員の方々が関わることができるか、どこで手伝えるかを考えていただきたい。そして、それを地域に返していきたい。国、県も入った形でのオール高梁の体制で支援を行っていきたい。防災がベースであるが関係部局にも入っていただいて、公助として体制を見える化してもらいたい。我々も全部の地域は難しいがモデル地区には入っていく、本気で作っていく、仁賀では住民から自助と共助は一緒だということまで話が出た。市長の力添えもお願いしたい。

(氏原副委員長)

地域に入って感じたことは、地域の方はやろうとしている。その中で地域でできないことがみえてきた。向上委員会のサポートが必要となってくる。「自助」「共助」「公助」で支え合える体制が必要となる。

(市長)

地域の取組みで、福祉委員が入り災害時に周りを見ないといけないとか、防災のリーダーになるために、防災士の資格を取るとか知識の習得があるかなとか、でも、そこまではもうええと言われるかなとか。地域の意識の差はあるかな。

(三村委員長)

的を射ている。防災士を確保しながら、その地域の中で冷静に動ける人や専門的な知見のある人は、大きな鍵となる。

(神田委員)

市は防災を進めていきたい立場、自主防災組織は自分自身の身を守りたい、双方にズレが生じる場合がある。中立に防災士がいる。付き添い、寄り添って進める立場が必要。

市と委員会の全ての力を使って、地区防災計画をつくっていく。言葉にしていくことは難しいので、フォローが必要となってくる。

(三村委員長)

地域の皆さんには考えてもらっている。助けが必要な部分がある。地区防災計画を作っていくには、専門的な知見が必要となっている。

(事務局：乗松政策監)

地域防災力向上委員会は平成30年の災害を受けて喫緊の課題として強い意志を持って立ち上げました。市内にたくさんの組織、危ない所、いろんな課題がある、外からの意見や知見をいただいて防災力向上していくことが必要です。防災は「自分の身は自分で守る」という強い意志をもってやらないといけない。頼らないといけないところもあるが、ここまでは自分で、地域でできるというのを皆で話し合いながら、進めることが必要になる。それがまちづくり、防災、高梁のまちづくりにつながっていけばいいと思います。

(中村委員)

今年は、コロナの影響で大がかりな行事ができていない。活動をしていないと防災の気持ちは下がっていく。役員改選で更に気持ちが下がる。気持ちを上げるのに苦勞する。当たり前の訓練を繰り返す必要がある。住民はいきなり訓練開始とポンと投げても何をしたらいいか分からない。

(三村委員長)

役員は地域の顔役で回している。地域の知恵が必要となってくる。地域でやれることの限界を知ることが必要。どうしたら我が事になるか、粘り強くやっていく必要がある。

(氏原副委員長)

「全ての住民が理解して行動できる」ことが重要となる。住民にどうやって考えてもらうか、住民主体が必要となってくる。

(三村委員長)

文言だけではだめ。地図に書き落としていく必要がある。ドローンで撮影すると心理的にやる気になる。地域の皆さんに我が事としてついてきてもらう必要がある。

(3) 今後のスケジュールについて

<意見交換>

(三村委員長)

マイ・タイムライン講習会後の取組として、一回作ってそれをどう活かしているのか。取組事例があれば。

(柏原委員（代理：今野課長）)

倉敷市が先進的であります。小学生を対象に学校で実施し、家庭に持って帰ってもらい、スマホで調べたり、家庭内で考えてもらってます。

(神田委員)

出来る限りの協力をいたします。気象庁のホームページなどには、たくさん教材となるものがあります。それらを、町内文書などで家庭で見ってもらう機会も必要になる。

(三村委員長)

スマホで調べたりの癖をつけることが大事。子供がリーダーシップを取る形は良い。

(事務局：乗松政策監)

マイ・タイムラインは意識づけのハードルが低いが、家に持って帰ってのフォローが出来ていない。来年度は、自主防災組織用のタイムラインの作成も考えている。

(三村委員長)

防災には「金の魔法の杖」は使えない。忍耐が必要である。アイデアを出し合って高梁モデルを作っていきたい。

4. 閉会

(氏原副委員長)

コロナのなかで非常にたくさんの方をやっていく。防災は地域密着のものであり、コロナのなかでうまくやっている。今後は委員の協力も必要になってくる。モデル地区の横展開をしていくには、市の機運を高めていかないといけない。それぞれの立場で「防災都市・高梁」を実現するとの意識を持って、何が出来るかを考えて取り組んでいく必要がある。